

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	29 / 1985 / 32-35
タイトル	S60.8.7 グダリ沼の調査(Part3)
著者名	山田祥子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

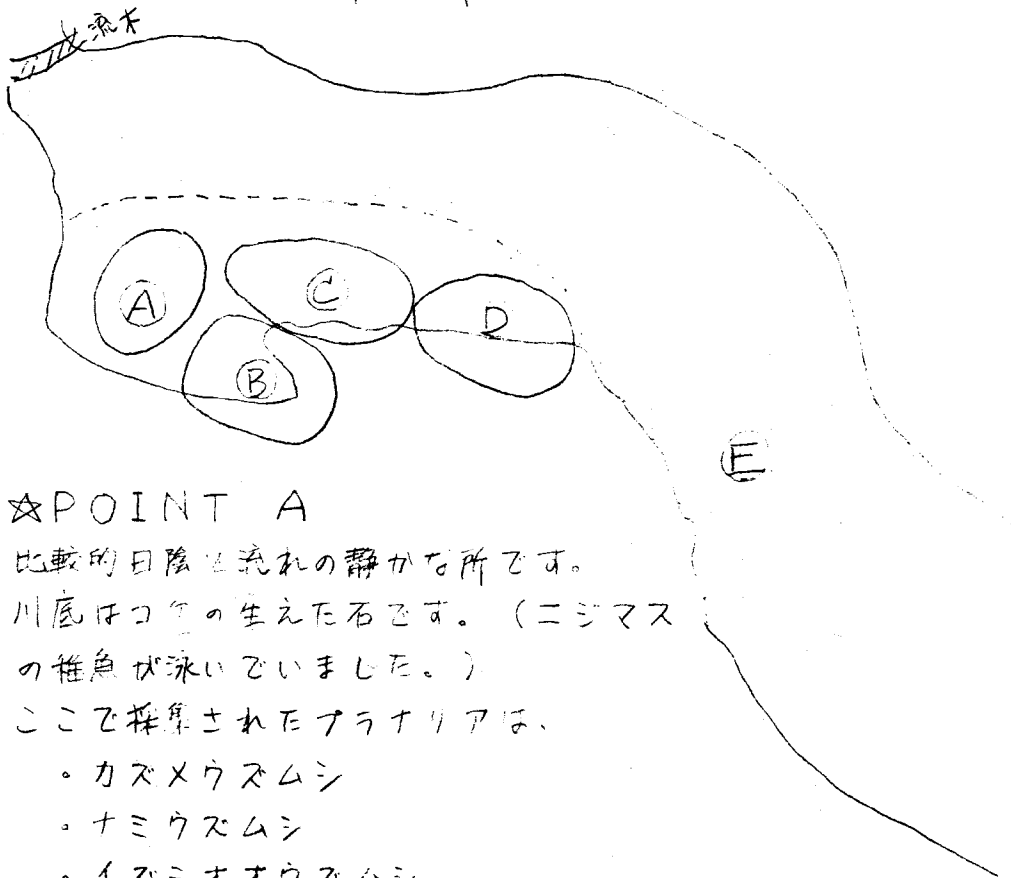
S60. 8. 7. クタリ沼の調査 (Part III)

3年 山田祥子

第3回目の調査です。

今回は天候に恵まれず、納得のいく調査ができなくて残念でした。

くもり/雨 w.temp pH



☆POINT A

比較的に日陰と流れの静かな所です。

川底はコケの生えた石です。(ニジマスの稚魚が泳いでいました。)

ここで採集されたプラナリアは、

- ・カズメウスムシ
- ・ナミウスムシ
- ・イズミオオウスムシ

です。ほとんどが体長1.5~2.0cmの大きいものでした。流れがゆるやかで石にもコケが生えているので、体に傷つくことがないのでしょう。昨年、一昨年は、ナミウスムシばかりで時々イズミオオウスムシ、カズメウスムシが腐を出す程度でしたが、どういうわけか、今回はカズメウスムシが多かった

ようです。 といつても個体数は極めて少ないのです。冷たい水に5分も手を入れてさかしてもし、2匹。 このポイントは年々数が減っているように思われます。このポイントには、他のポイントのように蚊の卵や、気持ち悪い水生昆虫がいないのは不思議に思いました。

☆POINT B

水の流れがほとんどなく水たまりのようです。といつても水がよどんでいるわけではありません。

ここのポイントのアラナリアは、

- ・カズメウスムシ
- ・ナミウスムシ

でここでもやはりカズメウスムシが強いようです。ポイントの中心にはアラナリアはみられず、岸のオの石に少し付着しているくらいです。ここは昨年、一昨年と変化はみられませんでした。

☆POINT C

昨年、一昨年の結果では、このポイントにアラナリアが多く生息しているということでしたが、今年は何せか個体数が少ないのです。日なたの少し流れのある浅瀬で、あちこちから水が湧き出ています。石についた虫の卵や幼虫などが昨年よりふえたようです。

ここのポイントのアラナリアは、

- ・カズメウスムシ
- ・キタシロカズメウスムシ
- ・イズミオオウスムシ

です。 POINT Bに比べると、2倍ぐらいの個体は採

れましたが、それでも昨年に比べるとかなり減っています。昨年は濁き水のまわりに集まっていたのですが、そこにもあまりいませんでした。

。ここまでは、昨年も調べた場所です。ところがあまりに個数が少ないのです。POINT Cのおお个体くらいも採集された場所でも、30個体くらいしか採集されなかったのです。アラナリアはどこに行っても見つからないでしょう。ここをさらに調べてみます。

☆POINT D

ここまでくると、かなり深くなっています。バイカモなどの水草が生えています。

ここで採集されたアラナリアは、

- ・イズミオオウズムシ
- ・カズメウズムシ

です。深さがあるせいかイズミオオウズムシが採集されました。その中に少しカズメウズムシも混っていました。

☆POINT E

POINT Dよりも、浅くなっている長グツでも容易に歩けるくらいの深さがかなり広がっています。あまり期待しないで、直径10cmくらいの石をみてもみると……。

- ・キタシロカズメウズムシ
- ・イズミオオウズムシ

が30個体以上ついていました。まわりの他の石もみても見ました。その石にも、たくさんのアラナリアがついていました。このケタリ沼には、何度も来ていますが、こんなにアラナリ

アをみつけたことはありません。本当に、感動的でした。

考察

3回目のケダリ沼なので、着いて最初におどろいた事は、昨年より大分水位が下がったことでした。そして牛の放牧のため周囲が汚くなったことでした。このように環境が変化したため、アラナリアほどのようになったかという、湧水の出るPOINT A、Bあたりのアラナリアが減少して、逆にPOINT Eあたりで増加するという変化がありました。28号の“やぶなべ”に、「湧き水辺にアラナリアがたくさん生息しているのは、水量もあまり変わらず、通年の温度変化も小さいので生活しやすいから」と書いているので、今年は水位が下がったということより、湧き水の所で変化があったので、アラナリアが移動したのだと思います。

今年は、降雨量や積雪量の関係から水位が下がったため、水位に急激な変化があり、アラナリアの分布にも大分変化がありました。また、今年はよくな数値がとれず、比較できなかったのが残念です。

青森市の水源地というケダリ沼を守るためにも、来年また調査しようと思います。